

新病院整備にかかる基本設計について

1. 施設概要

- ・敷地面積 : 11,252,44m²
- ・建築面積 : 約 6,970m²
- ・延べ面積 : 約36,500m²
- ・構造 : 鉄骨造 (RCST + 一部S造) 地上9階建て
- ・病床数 : 405床
- ・想定患者数 : 入院 : 約370人/日 外来 : 約900人/日
- ・診療科目 : 28診療科 (予定)
内科、総合診療科、循環器内科、腎臓内科、消化器内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、外科、呼吸器外科、乳腺外科、眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、形成外科、神経内科、精神科、脳神経外科、麻酔科、産婦人科、小児科、泌尿器科、緩和ケア科、放射線科、病理診断科、救急科
- ・駐車、駐輪 : 車いす用駐車場 : 3台
駐輪場 : 300台 (一般用・スタッフ用合計)

2. 施設の特徴

「安心」と「信頼」のガーデンホスピタルの実現



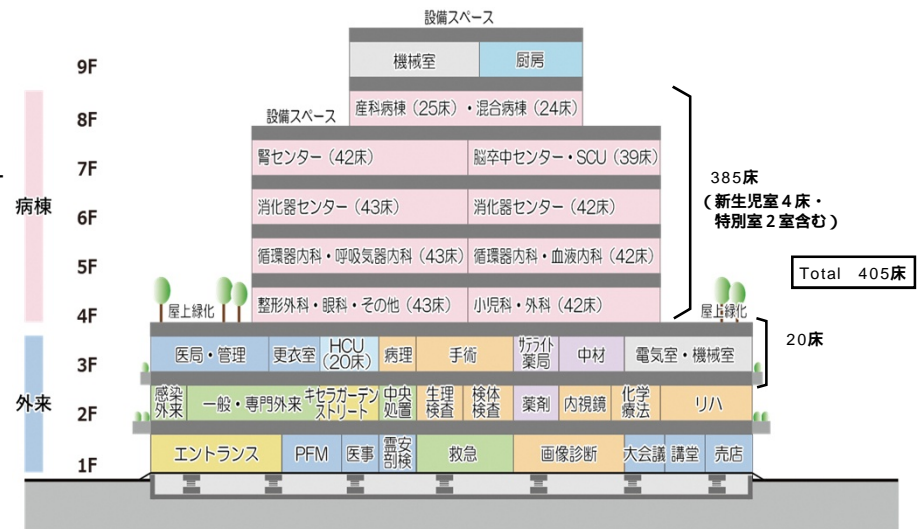
- ・川西の豊かな自然を最大限に活かし
患者・スタッフ・まちを健康にする病院とします
- ・患者ファースト・多職種連携の医療環境を
動線短縮と動線分離の建築計画でサポートします
- ・トリプルクロス全個室病棟で
「患者の近くにスタッフが居られる環境」を整えます
- ・水害・地震・火災に強く、感染制御に配慮した
市民の拠り所として計画します
- ・可変性とライフサイクルコストを重視した
持続可能な病院とします

3. 開院までの主な日程 (予定)

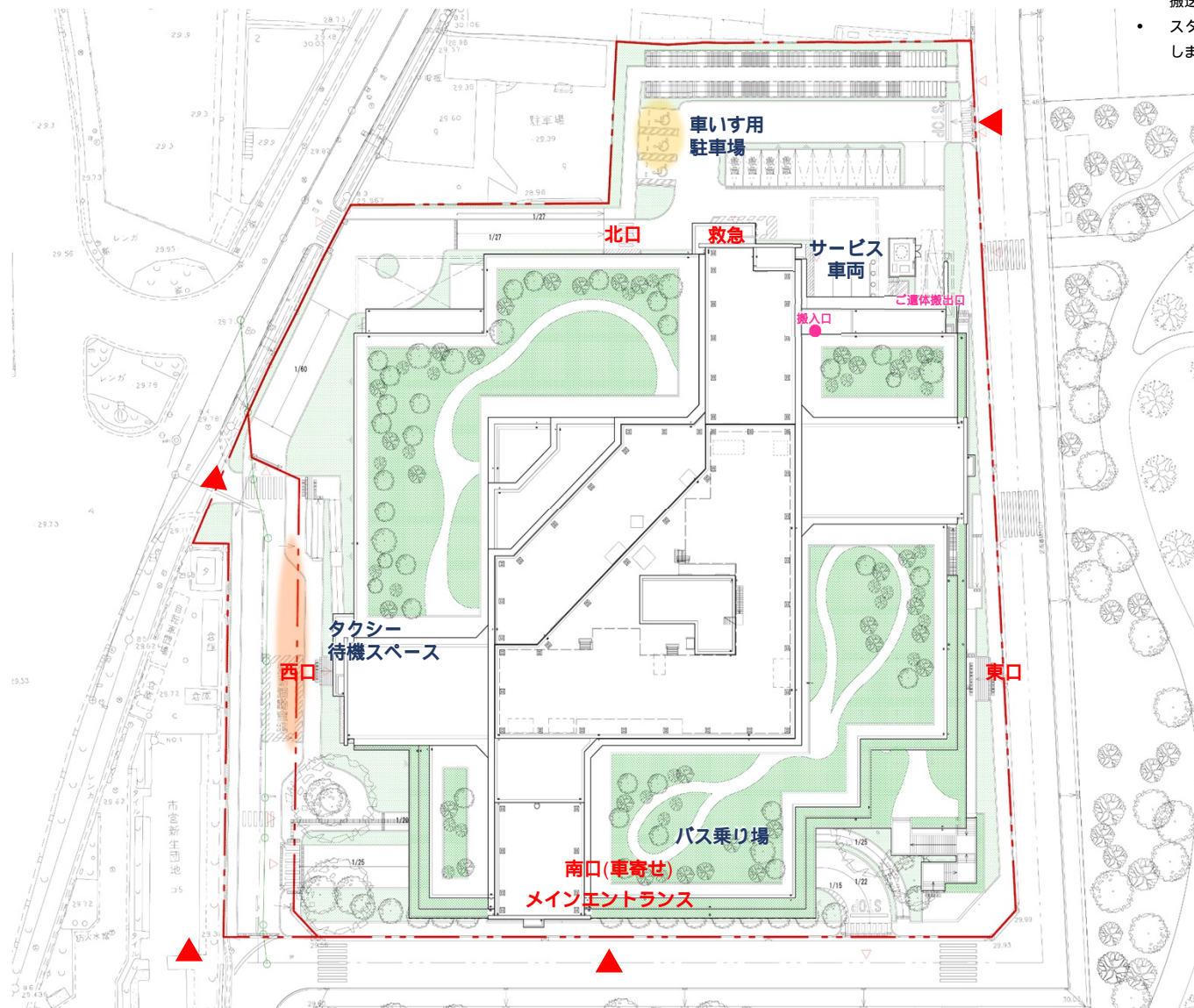
- ・令和2年10月～ : 病院本体工事 着工
- ・令和4年05月～ : 病院本体工事 竣工
- ・令和4年09月～ : (仮称)川西市立総合医療センター 開院



完成予想パース



断面構成



【サービススペース】

- 北東側にはサービス・搬入口を設けます
- サービス車両10台、救急車両4台、ご遺体搬送車両1台用のスペースを確保します
- スタッフや患者用駐輪場は北側に集約配置します



4【画像診断エリア】

- 南北に延びる中央の廊下と救急エリア入口、スタッフELVホール、救急待合に面した位置に、放射線の受付を設けます
- 将来アンギオ¹や一般撮影室を拡張できるスペースを確保します
- 時間外の患者は、中央の便利な位置に設けた救急待合で待機いただき、診察室、一般撮影室、CTやMRI室に誘導します

(用語の説明)

1 アンギオ：

「カテーテル」と呼ばれる樹脂製の細いチューブを太ももや腕の血管から挿入し、レントゲンで見ながら目指す血管の位置まで先端を送り、中から造影剤を注入して写真に撮る方法

3【西側入口（感染患者入口）】

- 西側の患者入口横にスタッフ入口を併設します
- インフルエンザなどの感染疑いの患者が増えてきた場合は、西側エントランスから案内し、外来用ELVにて2階の感染エリアに案内できるようにします

2【車寄せ】

- 南側のメイン入口前には約60mの車寄せを設けます
- 車寄せには、バス停やタクシー待ちスペースを確保します
- 車寄せ部分は3車線分の幅を確保します
- 有効高さ3.8mを確保します

1【エントランス・総合受付・PFM】

- 南側入口近くに総合受付を設けます
- 南側入口正面でクロス廊下の交点にセンターコンシェルジェを配置します
- 入って左手に初診会計等のカウンターを設け、カウンター付近に精算機、再来機を配置します
- 入って右手にはPFM（患者支援センター）を配置します
- 中央のエスカレーターで2階外来エリアにアクセスできます

5【救急エリア】

- 建物北側に、時間外・感染・救急入口をそれぞれ分けて計画します
- 外来1～2階を結ぶ外来用ELVを設置します
- 救急入口から初療3室・処置4ベッド、個室を配置し、入口正面に救急搬送用ELVを設けた直線的な構成とします
- 救急待合は各方向からアクセスのしやすい中央部に配置します

6【講堂（スタッフ食堂・大会議室）】

- 公園に面した東側エントランス面して講堂を配置します
- スタッフ食堂と大会議室は可動間仕切りで仕切られており、開けることで講堂として一体的に利用することが可能です（300人程度が利用可能）

7【東側入口】

- 公園に面した東側にも入り口を設けます（売店等を設置予定）

3【内視鏡エリア】

- 内視鏡エリアには5つ検査室と透視室、リカバリー12チェアを配置します
- 内視鏡部門に隣接してELVを配置し、放射線エリアへの移動も行えます

2【専門外来エリア】

- 小児科、眼科、耳鼻科、泌尿器科、産婦人科を配置します
 - 産婦人科の中に専用待合、授乳室、WCを設けます
 - スタッフ通路を裏側動線で確保し、スタッフの移動がスムーズになるよう計画します
 - 感染待合は、西側外来用ELVに近接して配置し、その他の外来エリアと分離します
 - 感染対応が増加する場合はキセラガーデンストリートの西側を臨時的感染待合エリアとして、エリアを分けることができます
- 原則として、感染疑いの患者の外来診療は行いますが、院内感染及び重症化が予想される患者、感染が確定した患者の入院診療は行いません（感染が明確な患者の外来診療は行いません）

1【フリーアドレス外来エリア】

- フリーアドレスを前提とした外来診察室を39室配置します
- キセラガーデンストリートに面してブロック受付を設けます
- スタッフ通路をつなげることで患者を動かさず、スタッフが動き回ることができる計画とします



4【化学療法室】

- 東側に面し、薬剤部門に近い位置に化学療法室を配置します
- チェア5台、ベッド4台と個室1室を設けます

5【リハビリテーション部門】

- 公園に面した位置にリハビリテーション部門を配置します
- 南側にはリハビリにも活用できる屋上庭園を設置します
- 外部階段を利用して、公園側にアクセスすることが可能です

6【検査部門】

- 採血・採尿検査受付はキセラガーデンストリートに面して計画します
- 病棟から搬送用ELVで搬送された患者が、キセラガーデンストリートを通らずに、病衣のまま専門外来や検査部門にアクセスできます

7【薬剤部門】

- 薬剤部門はスタッフ用ELVに隣接した中央部分に配置します

自然光が差し込み、眺望に優れたオープンエンドの廊下

「ワンストップ待合」と「どこでも待合」の運用が可能

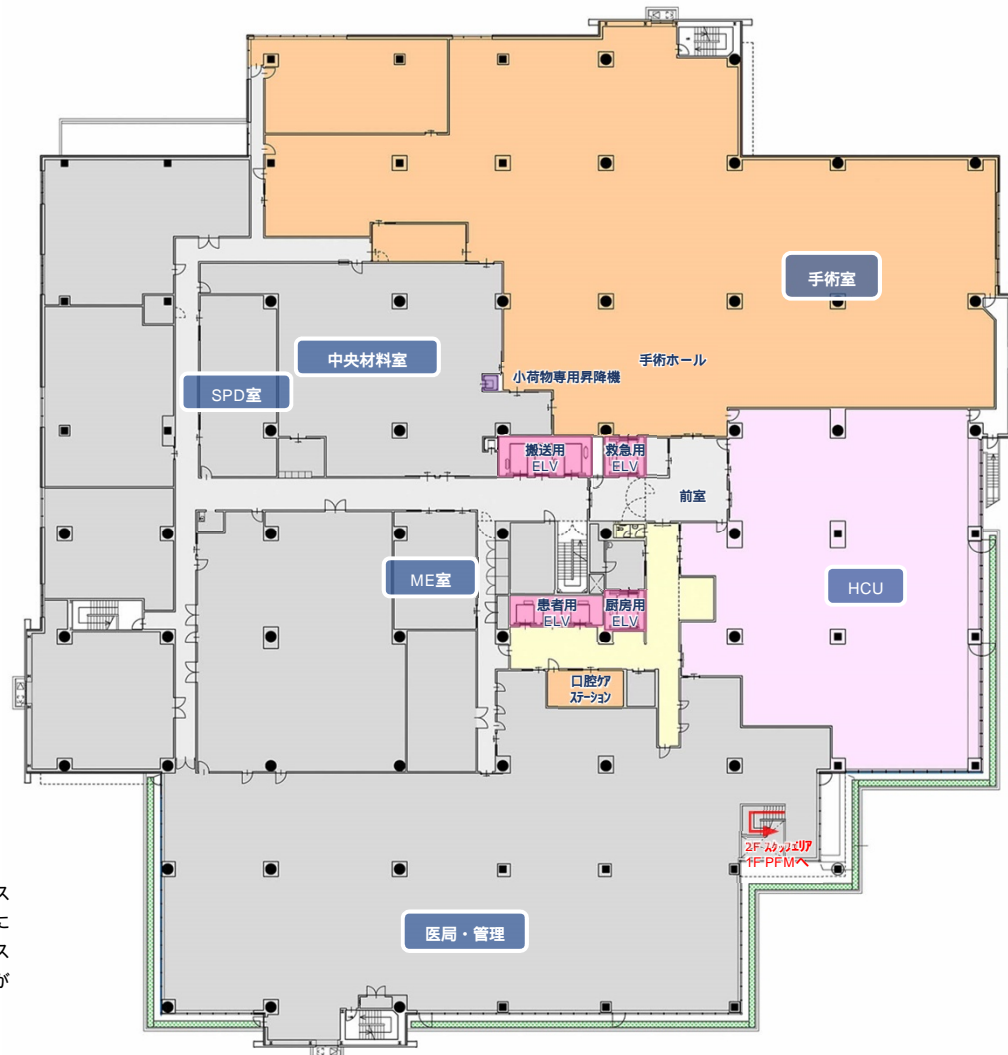
- ワンストップ待合・・・外来と検査の中心に設置し、患者の移動を最小化
- どこでも待合・・・スマホ等の端末を利用し、お好みの場所で過ごせるようにします

患者にとってわかりやすいメイン待合とループ廊下の計画

- 東西方向の伸びるメイン待合（キセラガーデンストリート）を配置します
- 各科を結ぶようにループ廊下を配置し、その中央に検査・薬剤部門を配置

1【医局部門】

- 公園に面した南側に医局を配置します
- このスペースには、ミーティング、職員図書スペースを設けます。コミュニケーションスペースにもなると同時にこの階段からは、2階の外來のスタッフエリアを経由して、1階のPFMまでつながります



2【手術室】

- オペ室7室と将来増築用1室分のスペースを確保します
- オペエリアは、清浄度が高いエリアと日帰りオペがあるエリアとに分けた計画とします

3【HCU（高度治療室）】

- 手術室南側には、HCUを配置します
- HCU20床のうち、手術室側6床分は将来ICU（集中治療室）を見据えた計画とします。
- HCU入口側には、4床の観察室を2室設けます
- 透析対応を5か所設置します

4【その他の諸室】

- 患者用ELVの付近に口腔ケアステーションを設け、オペ前の口腔ケアなどが行えるようにします
- ELVに近い位置に中央材料室¹、SPD²室やME³室などの供給部門を配置し、物流搬送効率に配慮した計画とします

（用語の説明）

- 1 中央材料室：
院内の医療器材の洗浄・組立・滅菌等を行っています。他に衛生材料の作成・管理、SPDの納品物の検品などを行います
- 2 SPD（Supply Processing & Distribution）：
物品（診療材料や薬品等）の標準化や物流・業務の効率化を図ることにより、購買管理・在庫管理・搬送管理・消費管理等を一元管理する物流管理システム。
- 3 ME（Medical Engineer）：
臨床工学技士。病院で使用される医療機器の保守・管理や、病気の治療に使用する医療機器の操作を行う職種。

1【4～8階 病棟の考え方】

トリプルクロス廊下の構成とし、動線を従来病院比10%短縮

- 患者用クロス廊下で目届きを確保&見守り
- スタッフ用クロス廊下で、供給効率UP
- 病室の対面を避け眺望を重視
- リハビリやデイルームをコーナー部に設けます

看護師が少ない時間帯でも、目が届く病棟計画

- 夜勤は、3人看護を想定
- 患者用クロス廊下の交点や、重症室前に平行に配置したスタッフカウンターから病室に目が届く環境を整備

スタッフクロス廊下の交点にスタッフ諸室を配置

- スタッフルームやカンファレンス看護準備室、仮眠室2室、廃棄物保管庫なども設けます

患者用クロス廊下の交点に看護拠点を配置

- 清潔リネン、不潔リネン、排泄物処理スペース、ストレッチャー置場を中央に配置します
- スタッフステーション前には見守りコーナーを設けます



2【7、8階 病棟】

- 7階から上は、日影規制の影響でセットバックします
- SCU¹を7階に設けます。他のフロアでは廊下であった部分を利用することで、スタッフステーションからの目届きに配慮した計画です
- 8階のみ1病棟の計画です。混合病棟と産科病棟を設けます

(用語の説明)

1 SCU (Stroke Care Unit) :

脳卒中集中治療室。
急性期の脳血管障害 (脳梗塞・脳出血・くも膜下出血など) の患者を受け入れる専用の病床。

3【8階 混合病棟】

- 混合病棟には、特別室2室を含む24床を設けます。
- 南側にはリハビリコーナー、デイルームを配置します

4【8階 産科病棟】

- 産科病棟には、LD²室3室と病床カウントする新生児室4室を含め、合計29室を設けます
- ELVホールに近い位置には交流ラウンジを設けます

(用語の説明)

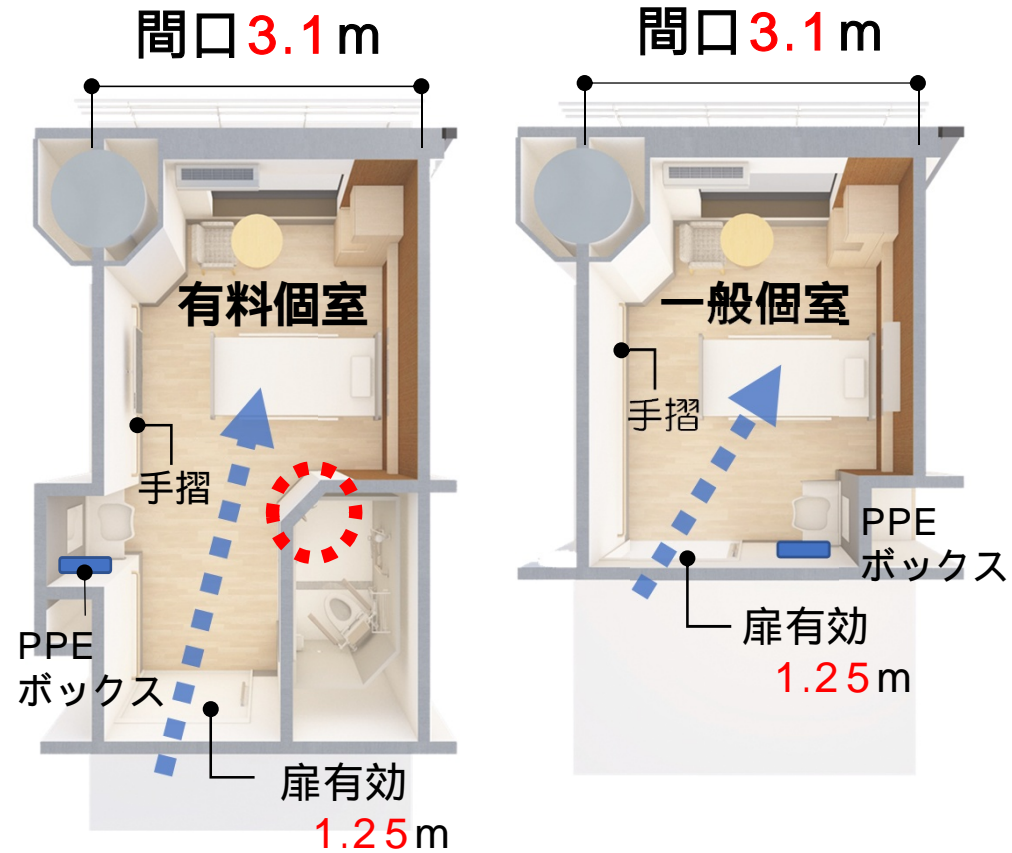
2 LD室 (Labor Delivery 室) :

陣痛、分娩を1つの室で行うことができるようにした室

1【病室イメージ図】

医療行為と見守りがしやすい個室病室

- 病室間口は3.1m 扉サイズは1.25mです
- 角のないユニットシャワートイレです
- ベッドの搬送や、ベッドサイドでの医療行為に配慮します



2【9階 厨房等】

- 9階は、入院患者用厨房や用度料のスペース、機械室、組合室兼倉庫等を設けます
- 厨房用ELVにより、食材搬入及び病棟への配膳と下膳を行います
- 搬送用ELVにより、時間帯を限定して食材の搬入と残飯の搬出を行います。清潔/不潔物品の搬送はパッキングによる運用での対応とする計画です

